

「琵琶湖周航の歌」 英語で歌おう！

英語版の作成について

「琵琶湖周航の歌」の英語版を2006年5月に完成して歌の誕生の町、滋賀県高島市の今津港の歌碑前で2006年6月3日に歌発表会と写真展で初公開しました。その後、NHKのど自慢や国際交流の集い、合唱団のコンクールなどにも披露いたしました。2007年6月16日についてCD化。

この「英語版」というと、ただの英訳ではなく、元の歌詞の意味をなるべく忠実に守りながら曲（メロディー）に合わせた英語版歌詞です。この歌の英訳は、前から数件が存在していますが、いずれも歌を英語で説明するためのもので歌うためのものではありません。歌える英語版が見つからないことで私は曲（作曲家：吉田千秋）に合わせた本当の英語版を作ろうと決心しました。多数の名所が登場する歌で滋賀のPRにもなるだろうと思いました。

できた英語版は、一見で簡単そうと見えますが、そういう簡単な表現や単語を思い付くまでには大変な時間と検討を要した。英語版を作成するためにいろいろの根本的な問題と限界がありました。解決できるものと解決できないものがありまして、この英語版は決してパーフェクトとは言えませんが、完成度は高く反響も良く、自信を持ってCD化。琵琶湖周航の歌資料館で販売中(0740-22-2108)。

ここで英語版作成の難しさの問題と解決方法を説明したいと思います。

[翻訳の難しさ] その1：一つの単語が複数の意味と対訳がある。

例えば日本語の「木」という言葉は、英語ではtree（植物）またはwood（木材）に訳できます。前後関係でどちらが正解か分かりますが、前後関係が不明のときはどちらにしたらいいか判断できません。「琵琶湖周航の歌」の曲名もLake Biwa Cruise Song, Song of the Circumnavigation of Lake Biwa, Song of Sailing Around Lake Biwaとかいろいろ見たことありますが、いずれにもなじめない英訳だと思います。例えば、Cruiseは、客船でのクルーズ。Circumnavigationは、大げさの意味があって、世界一周航海とかイメージします。そしてSailingは帆船で漕艇ではない。Song of Rowing Around Lake Biwaが一番正確ですが、英語では長過ぎてLake Biwa Rowing Songが十分でそうしました。

[翻訳の難しさ] その2：原文の意味が理解できないと、正確な翻訳は不可能。

歌の所々は意味が不明でどう訳したらいいか分かりません。例えば、「珊瑚の宮」。琵琶湖に珊瑚はありません。これは、珊瑚でできた神社、珊瑚の色の神社、珊瑚礁上にある神社のか。意味がはっきりしない場合、意味が不明のまま直訳するか自分の解釈を入れて英訳せざるを得ない。

[歌の英語版作りの難しさ] その1：意味にも曲にも合わせて両立させなければならない。

まず、日本語歌詞の意味が合った英語を作ります。そして曲に合わせるためにその英語を調整します。日本語歌詞の各行に7・5調となっています。例えば、「われはうみのこ」は七つの音節です。そして「さすらいの」は、五つの音節。英文歌詞も音節の数をなるべく7・5調に合わせます。

日本語歌詞より英語歌詞が短すぎてもっと長くする必要がよくありました。たとえば「松は緑に 砂白き」の7・5調は、"Green pines on white sands"の五つの音節の英語で済みます。この英語はあまり短くて曲に合わないため、音節を増やさなければなりません。他の英語の単語を加えて音節

「琵琶湖周航の歌」 英語で歌おう！

を増やします。しかし、何かの余分の単語を追加すると、その行の意味が変化されますので、本来の意味にあまり影響しない追加言葉を慎重に選ばなければなりません。むしろ音符に合ったもの。

逆に英語が長過ぎることもあります。例えば、「西国十番 長命寺」の英訳は、10th temple of Saigoku pilgrimage (遍路), Chomeiji. この英語は曲に長過ぎて削る必要があります。しかし、削るとその意味も変化されて元の日本語の意味と違ってきます。結局、「十番」(10th temple)を削って "Saigoku pilgrimage, Chomeiji" にしました。元の歌詞の意味をなるべく英語にも反映したいのですが、同時に曲にも合わせるためには不可能のときもあります。因に長命寺は西国十番ではなく 31 番です。

現代の音楽界では、日本語の歌の英語版を作成するとき、大抵元の日本語の意味をほとんど無視して作成されています。例えば、アニメ番組のテーマソングの英語版は、曲に合わせただけで日本語歌詞と全く違う意味の英語歌詞となっているケースが多い。坂本九の「上を向いて歩こう」の英語版歌詞も日本語と全く違う内容となっています。(英語曲名の "Sukiyaki" もまったく違う意味。) やはり元の歌の意味と曲にも両方に合わせることは大変難しいことの証です。

[歌の英語版作りの難しさ] その2：曲に合わせるため、音節のアクセントと短・長母音が重要。

日本語歌詞の 7・5 調に合わせるだけで英語版は完成できません。俳句とか短歌の英語版を作成するとき、音節の数が合えばいいですね。でも歌の場合は、各音節の歌い方(声の上げ下げ、延ばしなど)が変化するため、英語の短母音、長母音とアクセントが音符に合わせる事が重要です。

音節が延ばしている音符になるべく長母音やアクセントがある英語音節を当てたい。例えば、一番最初の「われはうみのこ」の「れ」と「う」と「の」が強調されて延ばしていますね。それぞれに長母音またはアクセントがある英語音節を合わせると歌えやすくなります。

[歌の英語版作りの難しさ] その3：英語で韻を踏むこと。

英語の詩では、韻を踏むこと(rhyme)が習慣です。しかし、そこまでの英語版は作っていません。これは、大変難しい。日本語の意味と違っててもいい場合は、できますが、本来の意味を守りながら韻を踏むことは、難しい。Rhyme がなくても特に違和感がありません。

[歌の英語版作りの作戦] その1：歌の勉強する。

小説でも歌でも翻訳するときには、必ずその小説とか歌の勉強をしなければなりません。歌の背景や歴史が知らないと歌の正確な意味が把握できません。当然、正確に翻訳できません。例えば竹生島のこと知らない翻訳者は「珊瑚の宮」の「宮」を palace (宮殿) に訳することがあります。本当は「神社」であることで shrine に訳します。主題をよく知った上で正確な英語にできます。

私は、いろいろ調べました。歌の研究者もいてその本を読んだり、歌に登場する名勝と各地の1番～6番の歌碑めぐりもしました。現在の京大のボート部のメンバーやOBからも話しを聞きました。

[歌の英語版作りの作戦] その2：地名をそのままに。

日本語の歌詞にある地名を全て英語版にもそのまま同じ位置に置きました。Shiga, Omatsugasato, Chikubushima, Hira, Ibuki, Chomeiji など。日本語版と英語版を同時に歌うと、地名の名前だけがぴったり合います。これがとてもいい作戦でした。歌えやすくて親しみやすくなったと思います。

では、1番～6番のそれぞれの英語版歌詞の解説もご覧ください。

「琵琶湖周航の歌」 英語で歌おう！

一番：大津

曲に合わせた英語版：

- 1a. We're children of the lake, off to wander 'round.
- 1b. This journey fills my heart with, intense happiness.
- 1c. Rising mist evaporates, ripples come and go.
- 1d. Shiga's Miyako dear, bid farewell for now.

英語版の直訳

- 1a. 我々は湖の子供たち、これから彷徨する。
- 1b. この旅で私の心は、凄い幸せいっぱいです。
- 1c. のぼる霧が蒸発したり、さざ波が来て去って行く。
- 1d. 志賀の都よ、ひとまず別れを告げる。

元の歌詞

われは湖の子 さすらいの
旅にしあれば しみじみと
のぼる狭霧や さざなみの
志賀の都よ いざさらば

さー、これから旅に出かけるぞ、と宣言的な一番。琵琶湖の周航に例えて人生行路でもある。この先はなにが起こるか霧のようにはっきりしないまま冒険心で出発する。とにかく凄い楽しみで嬉しい。

英語の意味

1a. 「われは湖の子」の「われ」を"We"（我々）にして複数に。そして「子」も複数の"children"に。Childrenは男と女も含むので女性もこの歌を歌っても違和感を感じさせません。"lake"は「～の子」にあたりますが、この一つの音節を二つ分の音節に延ばす必要があります(la - ke)。'roundは、aroundの略。余分の音節を削るために略しました。英語で"wander around"とよく言います。

1b. "fills my heart"は心を満たすという意味。「しみじみと」はemotion（気持ち）でも意味が合いますが、アクセントが曲に合わないため、happiness（幸せ）にしました。

1c. 「のぼる狭霧や」の対訳は"Rising mist"だけで済みますが、曲に短すぎるため、"evaporates"（蒸発する）を追加。"Rising"と"evaporates"の意味はほぼ同じでちょっとだぶっているかもしれないが、英語では違和感ありません。曲にもぴったり合っています。"evaporates"の二つ目の音節("va")にアクセントがあり、強調します。「狭霧や」の「ぎ」にあたります。

「さざなみの」の対訳は"Ripples"だけでいいけど、曲に短すぎて"come and go"を追加。小さい波が常時に私たちがいる所まで来て去って行くという意味。これは、さざ波の自然の動作で追加文として構わないと思います。

1d. Miyako（都）は、英語でcapital（首都）ですが、"capital"はあまり政治的な意味があるため、使いませんでした。滋賀の一番大きい都市、あるいは一番人間の活躍が高い都市という意味の英語がないため、「都」をそのまま"Miyako"に。勿論、"Miyako"の方が歌いやすい。"dear"は、「愛しい」という意味もありますが、ここでは呼び方の一種である。"Shiga"と"Miyako"は、日本語と同じように歌います。間にある「の」の対訳は、英語で別の単語を使いたかったけど、そういうものが無いため、やむを得なく所有格の「's」にしました。これは、「ズ」と発音します。

「琵琶湖周航の歌」 英語で歌おう！

2 番: 雄松 (大津市近江舞子)

曲に合わせた英語版：

- 2a. Pine trees are very green, on sands very white.
- 2b. Omatsugasato is, a young maiden's home.
- 2c. Bush of red camellia, hides her teary face.
- 2d. She's weeping o'er a lost love, much too short to last.

英語版の直訳

- 2a. とても緑の松が、とても白い砂にある。
- 2b. 雄松が里は、若い乙女の地元である。
- 2c. 赤い椿の茂みが、彼女の泣き顔を隠している。
- 2d. 失恋で泣いていて、短すぎて持たない恋だった。

元の歌詞

松は緑に 砂白き
雄松が里の 乙女子は
赤い椿の 森蔭に
はかない恋に 泣くとかや

緑の松は新鮮で白い砂は清純。青春時代の最大のテーマはやはり出会いと真っ赤な恋。恋におちたり、失恋したり、青春のつきもの。この番は緑、白、と赤で鮮やか。青春は色とりどりのときで人生の花。

英語の意味

2a. 「松は緑に 砂白き」の対訳は、五つの音節だけの"Green pines on white sands"で済みますが、これは7・5調の曲に短すぎるため、別の単語("very"など)を追加して音節を増やしました。この追加単語による意味の変化もほとんどありません。一つの音節である"green"を二つ分の音節に延ばします。

2b. 「雄松が里」は地名として扱っていて英語にもそのまま"Omatsugasato"に。雄松が乙女の古里と解釈しました。「乙女子」(maiden)は当然に若い女ですが、曲に合わせるために、"young" (若い)も追加。

2c. 「赤い椿の 森蔭に」の英語は述語(泣き顔)を入れたため日本語の意味と少し違いますが、同じイメージが浮かぶので差し支えないと思います。次の2dとの関連性もよくできています。

2d. 英語では、「泣く」の文が先にきて「はかない恋」の文が後に。日本語と逆です。"o'er"は、"over"の略できます。"over"として発音しても構いませんが、"o'er"とよく歌われます。

「琵琶湖周航の歌」 英語で歌おう！

3 番: 今津 (高島市)

曲に合わせた英語版：

- 3a. We drift from wave to wave, straying aimlessly.
- 3b. On shore we see red fire, brings back memories.
- 3c. With our sights set nowhere, rolling with the waves.
- 3d. Today is Imazu or, Nagahama huh.

英語版の直訳

- 3a. 我々は次から次の波に漂っていて、あてのない放浪。
- 3b. 湖岸に赤い火が見れると、思い出が浮かぶ。
- 3c. 照準をどこにも合わせないで、波にほんろうされている。
- 3d. 今日は今津か、長浜か。

元の歌詞

浪のまにまに 漂えば
赤い泊火 懐かしみ
行方定めぬ 浪枕
今日は今津か 長浜か

青春時代が終わるとそろそろ自分の人生の方向性を決めなきゃ。人生の岐路に立つとどの方向へ進めばいいか、だれでも悩みます。悩みながら放浪する。苦しみの後に見えてくる光（泊火）は、だれでも希望します。やはり自分の居場所を見つけたい。運命の「浪」に任せるか、自分で運命を決めるか。

英語の意味

3a. 「浪のまにまに 漂えば」の対訳は、"We drift from wave to wave"で済みますが、曲に短すぎるため、"straying aimlessly"を追加。あてのない放浪という意味です。Strayはさすらいとか迷うという意味。Wanderとほぼ同じ意味。（例えば、stray catは野良猫。）Aimlessはあてのないという意味。"wave to wave"の後者のwaveを二つの音節分で延ばします。

3b. 「赤い泊火」を英語で「湖岸に赤い火」にしました。たき火か灯火かはっきりしていませんが、この英語だとたき火と想像する人が多いと思います。「懐かしみ」の英語は、思い出が浮かぶ（懐かしがっている）という意味になっています。切望(yearning)の意味ではない。

3c. "sights"の直訳は照準ですが、意味は目標とか狙いです（名所、光景のsightsではない）。"rolling with the waves"は波の任せで揺れながら(rolling)動く。"rolling"の発音も日本人には難しい。"r"と"l"が重なっていて日本人は、"r"と"l"を同じ発音にする傾向があります。

3d. 日本語では、疑問文となっていますが、英語にも疑問文にするために"Is today~"にするべきですが、これはアクセント関係の問題で曲に合いません。"Today is"にして曲に合わせました。"Today"の"day"にアクセントがあって高い声で歌います。英語は本来の疑問文になっていませんが、最後に声を質問のようになると質問になります。ここでは、"huh" (huh?)のおかげで疑問文に無理やりにしましたが、この最後の音符では声を下げるため、ちょっと違和感があるかもしれません。

「長浜か」の「か」をどんな英語にしたらいいか本当に悩んだ所でした。「長浜」の後にどうしても一つの音節（単語）が必要でした。結局"huh"にしましたが、「~でしょう」とか「~ですね」という意味です。単独に"huh?"を言うと「えっ?」とか「ハァ?」の意味になります。この英語版の歌には、声を下げながら「ハァー」と発音します。

「琵琶湖周航の歌」 英語で歌おう！

4 番: 竹生島 (長浜市)

曲に合わせた英語版：

- 4a. Azure blue flower garden, revered coral shrine.
- 4b. Full of old-time stories, Chikubushima.
- 4c. In the hands of Buddha, one young maiden lies.
- 4d. She's sleeping in compassion, resting peacefully.

英語版の直訳

- 4a. 紺碧の青い花園、崇拝されている珊瑚の神社。
- 4b. いっぱいの昔語がある、竹生島。
- 4c. 仏の手に、一人の若い乙女が横になっている。
- 4d. 彼女は仏の哀れみにいだかれて眠っている、やすらかに休んでいる。

元の歌詞

- 瑠璃の花園 珊瑚の宮
- 古い伝えの 竹生島
- 仏の御手に いだかれて
- ねむれ乙女子 やすらけく

竹生島というと真言宗豊山派の宝厳寺。724年（神亀1）に開拓されて確かに古い。西国30番でもある。琵琶湖の一番有名な島。元びわ町だったが、長浜市と合併。市にとって大きな観光スポットが加えられました。この四番で鮮やかに語っています。しかし「珊瑚の宮」は一つのミステリー。琵琶湖には珊瑚がない。どういう神社だろう。人生がやっと楽になったと言っているかもしれない。

英語の意味

4a. 「瑠璃」は、辞書で調べると"lapis lazuli"が出てきますが、これはあまり難しい言葉でほとんどの人が知らないため、もっと一般的の"Azure"と"blue"にしました。"Azure"だけで通じますが、曲に合わせるため、"blue"も追加しました。

「珊瑚の宮」の意味は不明。（琵琶湖には珊瑚がありません。）これは、珊瑚でできた神社、珊瑚の色の神社、水中の神社、浄土にある神社、珊瑚礁上にできた神社とか、いろいろ考えましたが、どれにも特定できないため、直訳しました。"coral shrine"は、やむ得なく珊瑚でできた神社と解釈されるがちです。「珊瑚の宮」の対訳は"coral shrine"だけで済みますが、曲に短すぎるため、revered（崇拝する）も追加。

4b. "Full of"（いっぱいのは）は、意味として余分の言葉ですが、曲に合わせるために（音節を増やすために）追加しました。"Full"を二つの音節として歌います「フ」＋「ウル」。「old time」は"long ago"と同じ意味ですが、三つの音節である"long ago"は、曲に合いませんので二つの音節の"old time"に。竹生島の「島」を"jima"ではなく、「shima」にしました。

4c. 日本語と違ってこの行で「乙女」(maiden)の主語を挿入して「いだかれて」の意味を次の行へ持ち越しました。音節を増やすために"one young"（一人の若い）も追加しました。"Buddha"は、二つの音節がありますが、三つの音節分に延ばします：「ブ」＋「ウー」＋「ダ」

4d. "compassion"（哀れみ）は、英語圏での仏教の教えによく使われている言葉です。「いだかれて」の対訳（embracedとか）は曲の都合で入れていませんが、間接的にその意味が含まれています。仏の手に横になっていることと仏の哀れみに眠っていることで十分「いだかれている」の意味が出ています。

「琵琶湖周航の歌」 英語で歌おう！

5 番: 彦根城

曲に合わせた英語版：

- 5a. Sharp arrows buried deeply, way into the ground.
- 5b. Abundant summer grasses, a moat still remains.
- 5c. Standing in an old castle, all alone oneself.
- 5d. Hira and Ibuki too, only but a dream.

英語版の直訳

- 5a. 鋭い矢が深く埋もれて、ずっと地中に。
- 5b. 豊かな夏草、まだ残っている堀。
- 5c. 古城に佇んでいる、一人ぼっちがいる。
- 5d. 比良も伊吹も、ただの夢のごと。

元の歌詞

矢の根は 深く埋もれて
夏草しげき 堀のあと
古城にひとり 佇めば
比良も伊吹も 夢のごと

なんか歴史の話が多い。だいぶんの時がたってもう老後でしょうかね。今までの人生を一人で振り返って素晴らしい人生が夢のようだった。比良と伊吹山の地名がありますが、この番の背景は琵琶湖のどの場所かはっきりしていません。周航の順番として長浜か彦根にあたりますが、大半の人は宿泊先だった「彦根」と想定しています。でも長浜にはちょっとかわいそう。もしかして長浜でも彦根でもとらえてもいいようにわざと特定しなかったかもしれない。この展示場所はせっかく長浜ですから、「古城」を長浜城にしましょう。

英語の意味

5a. 「矢の根は 深く埋もれて」の対訳は六つの音節だけの"Arrows buried deeply"で済みますが、これは7・5調の曲に短すぎるため、別途の単語を追加して音節を増やしました。まず、"Sharp"（鋭い）を追加。そして"way into the ground"も追加したことで曲に合わせました。"buried deeply"と"way into the ground"はほぼ同じ意味でだぶっていますが、英語では違和感がありません。

5b. 「堀のあと」は remains of a moat と言いますが、英語では「まだ残っている堀」という意味になっています。豊かな夏草が堀にあるかどうかは、はっきりしていませんが、そう捉えることはできます。あるいは、古城の全体が豊かな夏草に覆われていて、その中に堀があると想像もできます。

5c. 英語では「佇めば」が頭に、そして「ひとり」が後にあります。日本語と逆です。「ひとり」の対訳は"one person,"とか"single person," "alone"などで済みますが、曲に短すぎて三つの単語の"all alone oneself"で音節を増やしました。曲によく合っています。

5d. 英語は、意味にも曲にもよく合っています。"but a"の"a"の発音は、「ア」または「エ」にしてもOK。

「琵琶湖周航の歌」 英語で歌おう！

6 番: 長命寺 (近江八幡市)

曲に合わせた英語版：

- 6a. Saigoku pilgrimage, Chomeiji.
- 6b. Dispel this world's impureness, very faraway.
- 6c. Golden waves on which we weave, rowing all we can.
- 6d. Tell us my friends your stories, with your fervent hearts.

英語版の直訳

- 6a. 西国の遍路に、長命寺。
- 6b. この世の不純なものを、とても遠くまで追い払おう。
- 6c. 黄金の波に縫うように進んで、一生懸命に漕ぐ。
- 6d. 出来事を語れ我が友、熱き心で。

元の歌詞

- 西国十番 長命寺
- 汚れの現世 遠く去りて
- 黄金の波に いざ漕がん
- 語れ我が友 熱き心

この歌の一番問題となっている番です。長命寺は西国の十番ではなく、三十一番である。でも「三十一番」は、長過ぎて曲に合わないため「十番」になった。長命寺の住職がクレームをつけたほどの問題。のんきな心で作った歌ですから作詞たちを許してあげたい。これは歌の最後の番で旅の終わりです。もう浄土へ行ってしまったと解釈する人もいます。いやですね、もっと長く生きたい。もっと語りたい。もう一度、旅をしたい...

英語の意味

6a. 英語ではこの「十番」の問題を避けて数字が入れていません。"pilgrimage" (遍路) だけで解決しました。問題の「十番」を英語で歌いたい場合、"Saigoku pilgrimage"の代わりに"Saigoku tenth temple"と歌ってもいいです。ただし、意味が分かりにくいかもしれません。(遍路であることが分かりません。) 10th temple of Saigoku pilgrimage にしたいけど、曲に長過ぎます。「十番」を抜けたため、この行は元の日本語の意味と忠実になっていません。

「西国」を Western Japan に英訳できますが、四国と同じく「西国」も一つの地名として扱っています。そのまま"Saigoku"にした方が歌いやすいのです。

6b. "impureness"は、不純なものですが、心の不純物(どん欲、しっと、汚職など)として解釈しました。英語では、「心の不純物」とはっきり言っていませんが、前後関係で物理的の汚いもの(ゴミなど)ではなく、心の不純を指していることが分かると思います。

6c. この行にも曲に合わせるためにいろいろ小さい単語を加えました。この行では"w"の単語が多くてすいすいと歌いやすいと思います。

6d. 「熱き心」の「熱き」は、passionate (熱心的) という意味ですが、曲に合う二つの音節の"fervent"にしました。意味は passionate とほぼ同じ。この行を二回繰り返して歌います。(日本語と同じ。)